平成25年9月

中林基　学位論文審査要旨

主　査　　梅　北　善　久
副主査　　池　口　正　英
同　　領　家　和　男

主論文

PITX1 is reliable biomarker for predicting prognosis in patients with oral epithelial dysplasia

（PITX1は口腔上皮性異形成患者の予後を予測するための信頼できるバイオマーカーである）

（著者：中林基、尾崎充彦、小谷勇、岡田太、領家和男、押村光雄、井藤久雄、久郷裕之）

平成25年　Oncology Letters　掲載予定

参考論文

1. A case of angiomyolipoma of the lower lip

（下唇に発生した血管筋脂肪腫の1例）

（著者：中林基、小谷勇、田窪千子、木谷憲典、酒井博淳、領家和男）

平成25年　Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology　掲載予定

2. Tubular-trabecular type basal cell adenoma of the parotid gland: A patient report

（耳下腺に発生した管状-索状型基底細胞腺腫：症例報告）

（著者：中林基、庄盛浩平、木谷修一、塩見達志、野坂加苗、井藤久雄）

平成22年　Yonago Acta medica　53巻　65頁～69頁

審　査　結　果　の　要　旨

本研究は免疫組織化学染色を用いて、正常口腔粘膜、口腔上皮性異形成およびOSCCにおけるPITX1タンパク発現を検索し、口腔上皮性異形成におけるPITX1タンパク発現と癌化との関連を検討したものである。PITX1タンパク発現は、正常口腔粘膜から口腔上皮性異形成、さらにOSCCへと進行するに従い、発現が低下した。さらに口腔上皮性異形成からの癌化にPITX1タンパクは口腔上皮性異形成の程度とは独立した癌抑制因子として機能していることが判明した。本論文の内容は、上皮性異形成からOSCCへの悪性転化を予想する新たなバイオマーカーとして有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。